

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1078 2010年1月号



石鎚山“天狗岳”の樹氷



年頭挨拶

新年あ
けまして
おめでと
うござい
ます。
皆様方
なつたことと存じます。心か
らお喜びを申し上げます。
改めて昨年を振り返ってみ
ると、やはり大きな変化の年
であったように思われます。
百年に一度の金融危機とも言



四国森林管理局長 篠田幸昌

におかれ
ては、ご
家族共々
お健やか
に新年を
お迎えに
した。
われた一昨年の経済面での変
動は、年をまたいで我が国の
社会にも大きな影響を与えて
きた訳ですが、昨年は我が国
の中でも大きな動きがありま

何と言っても、昨年八月の
衆議院選挙の結果新内閣が成
立したことは、大きな変化と
言って良いと思います。発足
後の新内閣は選挙公約に沿っ
て行政を展開してきました
し、今後も基本的には同様に
推移していくものと見込まれ
ます。これまでの意志決定プ
ロセスに慣れた我々として
も、新たな意識で臨んでいか
なければいけないこととなり
ました。

透明化・効率化の一層の徹
底にとどまらず、我々の行っ
ている日々の事業が、どのよ
うな意味を持ち、どのような
効果が実現できるのか等の問
題意識がこれまで以上に必要
不可欠とされることになりま
す。十分な留意が必要不可欠
かと思えます。

新内閣における方針とし
て、懸案であった国有林野事
業の一部独立行政法人化の問
題については見直しがなされ
ることになります。これまで
の方針に代わり、事業の一般
会計化が検討されていくこと
になります。この意味では、
国有林野事業にとっても大き
な節目になりうる課題であり
ますし、高いレベルでの諸制

度間の整理が必要であること
は明らかです。今後、検討
が深められていくことになる
ものと考えられますが、クリ
アしていかなければいけない
個々の課題もあり、今年から
どのような経営形態で国有林
が適正に管理されていくべき
かが問われていくことになる
のではないのでしょうか。

厳しい経済・社会環境の下
で、今日の我が国森林・林業
も例外ではないことは論を待
ちません。
住宅投資の低迷、円高の進
行などの厳しい経済面での
材料に加えて、住民の高齢
化、経済活力の低下などは地
方の方がより切実な面があり
ます。昨年にはデフレの懸
念が内閣の中からも指摘さ
れ、生活、雇用等々への好ま
しからざる影響が懸念されま
す。厳しい予算事情を考えれ
ば、単に事業費が確保・増額
となる事態は想定しにくく、
地域としてより一体的・効果
的な事業執行が、国有林、民
有林を含めて求められてくる
のではないかと考えていま
す。これまで機械的に実施し
てきた面があったとすれば、
今後の事業の進め方について

も十分に考えた上で実施して
いくことが必要なのではない
でしょうか。
更に地球温暖化対策が新内
閣の大きな課題となっている
こともご案内のとおりです。
新たな具体的枠組みの構築に
ついては、諸国間の事情の差
もあり予断を許さない面もあ
りますが、我が国の森林・林
業に対しても、大きなインパ
クトを及ぼしうるものです。
国有林野事業のみならず民有
林関係についても活性化に繋
げることができるよう期待し
たいものです。

四国森林管理局としては、
これらの情勢を踏まえて、地
域に根ざした事業の推進に務
め、四国の森林・林業・木材
産業の活性化に繋がるよう本
年も頑張っていくことにした
かと思えます。

職員の方々の協力と関係者
の引き続きのご支援を得られ
れば幸いかと存じます。

最後になりますが、本年が
皆様にとって幸多き明るい一
年となりますことを心より祈
念いたしまして、新年のご挨拶
とさせていただきます。



原木市場の見学の様子



一月二二日、高知県本山町及び土佐町内において、「地域材発見ツアー」を実施しました。

このツアーは、再生産可能な資源である木材を、住宅や家具等に利用していくことは、森林の整備につながり、地球温暖化防止に貢献することを踏まえ、木材利用への理解の促進を図る取組として実施したものです。

ツアーには、中高年を中心とした一般参加者一三名と、七月

から行っている森林ボランティア活動入門講座（木材利用）の講座として、受講者八名、計二二名の参加があり、嶺北木材協同組合の協力をいただき、嶺北地域で生産された木材が住宅建築に至るまでのシステムを見学しました。

はじめに見学した嶺北木材市場では、木材の分別、スギの強度や丸太一本の値段、一本ごとの性質の違い等について説明がありました。参加者は、嶺北スギの強度が、強度実験結果から他の樹種より優れていることに感心するとともに、丸太一本の値段の安さに驚いていました。

続いて製材工場とプレカット工場を見学しました。参加者は、初めて見る施設の説明に熱心に耳を傾け、注文者ごとに名前を付けて分けられている板材・構造材に、近所の人の名前があるのを見つけると、今度話を聞きに行こうなどと話していました。

最後に、建築中のれいほくスケルトン住宅を見学しました。参加者は、原木から製材工場、プレカット工場を経て、実際に建築されている嶺北スギをふんだんに使った住宅に触れ、その素晴らしさを実感したようでした。特に、大黒柱の太さに驚

き、建築費用はどれ位かかるかなど、建築に向け具体的な質問がありました。

参加者の感想として、「森林から生産された木材が、どのよう加工され使われているのか大変勉強になった。有意義な一日でした。」との話がありました。



第五回高知もくもくランド

二〇〇九秋まつりが、高知県木材普及推進協会の主催で高知市仁井田の高知木材センターで一月一四・一五日の両日、二日間に渡り開催されました。

高知県産材の普及を目的に開催されたこの催しには、木造住宅の設計士、工務店、木材店、太陽光発電などエコ製品などを扱う様々な業種の企業等が五五小間出展しました。

また、住宅相談や地震対策、リフォーム相談など、木材を使った建築に関する総合的な相談会場にもなっています。

四国森林管理局も、木材の良さをPRするパネル展示と、間



オープニング丸太カット

伐材の板を糸ノコでくり抜いたクリスマス壁飾りの木工で参加しました。

オープン前から親子連れの行列が夕方まで続き、二日分の材料が一日目で底を突くほどの人気のため、急遽材料追加と、うれしい悲鳴でした。

各出展者の間でも、お互いの商品の情報交換なども見られ、異業種間のコミュニケーションの場としても効果があったようです。

また、耐震診断相談や悪徳リフォーム対策など木造建築に関するパネルディスプレイショーなどが開催され二日間のイベントを終えました。



一〇月〜十一月に掛けて高知市内、高知西高校と高知南高校の普通科の選択科目で「発達と保育」を講義する生徒を対象に森林環境教育と刃物の使い方の実践を兼ねた木工教室を行いました。

高知西高校は、今年で三回目、高知南高校は今年からの取り組みです。

この取組は、家庭科教師から、「最近では便利になりすぎて、刃物を使って、削る、切るという基本的な作業が苦手な生徒が多いため、生徒たちに木工を通して、木に触れ楽しみながら、刃物の扱いにも慣れてもらいたい。」との依頼があり実施したものです。

両校とも、初めに、森林の働き、森林整備、木材利用の重要性などを学び、高知西高校では、今年、森林整備で切り出された竹を使い、「カナカナ蝉」、高知南高校は、刃物を多く使う「グマ・タヌキ置物」などに挑戦しました。

参加者の半数程はナイフなどで鉛筆を削ったり、鋸で木を



ノコギリに悪戦苦闘

切ったことがない者がいて、使い慣れていない刃物を扱うのは容易ではなかったようで、ノコギリで材料を切り離す作業では、「曲がる。」「真っ直ぐに切れない。」と悪戦苦闘でした。
ノコギリを使った部品づくり作業を見ていると、時間内に作品が完成するのかと心配しましたが、それでも、参加者全員が時間内に作品を完成させました。高知西高校では、最後に、全員で、カナカナと季節はずれの蝉時雨。高知南高校では、作品を持ち寄り記念撮影で終了しました。
両校の生徒達は、自然素材で出来るおもちゃを自分でつくり上げ、楽しみながら刃物に馴染んでくれて、私たちも大変満足でした。

くいしやま いいのやま
「工石山」、「飯野山」で
「森林・林業体験交流
促進対策調査」の最終
報告検討会を開催
《指導普及課》

平成二一年度から、嶺北森林管理署管内の「工石山地域」及び香川森林管理事務所管内の「飯野山地域」を対象として実施している「森林・林業体験交流促進対策調査」の最終報告検討会を、工石山地域について、一二月四日に高知市工石山青少年の家において、飯野山地域については、一月三〇日に丸亀市野外活動センターにおいて開催しました。
この調査は、比較的都市部に近く、体験活動の場としてふさわしい両地域において、安全で効率的な学習体験活動を行うための全体構想、学習・体験プログラム等の作成、取りまとめを行うものです。その取りまとめに当たっては、有識者や教育関係者、地域の活動団体等の方を委員とする検討会を開催し、その意見を反映させることとしており、今回は、一〇月に開催した中間報告検討会に引き続いて行ったものです。両地域ともに、はじめに、委託調査業務の受託



工石山地域の検討会の様子

者である(社)全国森林レクリエーション協会から、最終報告の内容について説明し、その後、委員から意見を伺いました。
「工石山地域」の検討会では、「学習コースのそれぞれの学習場所を何を選んでもらうのか『ねらい』を明確にし、それに沿ったコース名にすべき。」「森林内だけでなく、早明浦ダムや木材利用のことを学ぶプログラムを組み合わせがとってもよい。」「自然林の生い立ちやサンショウウオの生態を説明した看板があったらよい。」「植樹や間伐体験だけではなく、子どもたちが森林に親しむという観点から、単に『遊ぶ』という空間があってもよいのではないか。」などといった意見が出されました。

技術開発課題に貴重な
意見を第二回技術開発
委員会を開催
《指導普及課》

また、「飯野山地域」の検討会では、「具体的なプログラムを、先生や子どもたちに作成してもらおうという提案は賛成であるが、そのための素材を用意しておくことが必要。」「日帰り型だけではなく、宿泊型のプログラムがあってもよい。」「丸亀市には、他の体験活動の場として、丸亀城等があり、なぜ飯野山で行うのかという価値を改めて整理する必要がある。」「今回は、丸亀市側の学習コースの提案だけであったが、坂出市側からも登山できることから、同様に学習コースを検討すべき。」などといった意見が出されました。
今回で本調査の検討会は終了となり、今後は報告書にまとめるとともに、それを踏まえた施設整備等を、平成二一年度から二二年度にかけて行うこととしています。

管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家等の外部委員で構成されています。

今回は、平成二一年度技術開発中間報告の二課題(①立木密度の変化による林床植生等への影響調査、②ヒノキ天然更新地の更新技術の確立)、技術開発完了報告の一課題(天然林におけるモミ・ツガ等の天然更新技術の確立)、平成二二年度技術開発重点課題の一課題(二ホンジカ困いわなに関する研究について)について審議を行いました。

委員からは、①立木密度の変化による林床植生等への影響については、間伐率別(材積割合で三〇、四〇、五〇%伐採)の調査区を設定して調査開始から七年程度経過しており、調査区によつては、もう一度間伐を実施するなど、次の施業計画を検討してはどうか、②「ヒノキ天然更新地の更新技術及び天然林におけるモミ・ツガ等の天然更新技術については、稚樹が発生と消失を繰り返しており、稚樹の消失原因をさらに解明できたら、天然更新の指針となるのではないか、③二ホンジカ困いわなは、四国森林管理局が二ホンジカの困いわなの技術開発に着

手することは大変意義があり、今後、困いを含むニホンジカの捕獲についての情報の交換に努めて欲しいなどの意見が出されました。

今回頂きましたこれらの貴重な意見等を踏まえて、今後の技術開発に活かしていくこととしています。



技術開発委員会の様子

『Xmas飾りづくり教室』
森林ふれあい館で開催
クリスマス飾り出来どい
 指導普及課

十二月二日、「Xmas飾りづくり教室」を、四国森林管理局森林ふれあい館において実施しました。

参加者は、公募により募集した子どもから大人までの二五名

です。

この木工教室は、昨年からのクリスマス前のこの時期実施しているもので、今年も、杉の間伐材（二三センチ四方の薄い板）を使って、誰でも作れる簡単な木工（壁掛け）教室を開催しました。

作業の内容は、予め用意した型紙を基に型を取り、糸ノコで切り抜いて絵付けをする作業です。参加者は、糸ノコの作業に「無理！」などと戸惑いながら作業を進めていましたが、なれると皆さん初めての体験とは思えない程上手に切り抜いていました。

最後の仕上げは、各人の感性で色づけ。ボンドの付けすぎで乾くのに時間がかかったり、細部にこだわった作品もあり、色づけ



クリスマス飾りづくり作成中



クリスマス飾り

らしい作品に仕上がりました。これで今年の木工教室はおしまい。来年も、またこの時期に、クリスマス用に併せて正月用の飾りも用意して実施したいと考えています。

平成二〇年度四国の
国有林野事業の実施状況
 企画調整室

四国の国有林野事業の平成二〇年度の実施状況について取りまとめを行いましたので、概要をお知らせします。

（詳細については四国森林管理局ホームページをご覧下さい。http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/policy/hakusyo/jissai.jyokyou-shikoku.html）

【公益的機能を重視した森林づくり】

地球温暖化をはじめとする森林の持つ公益的機能の維持増進を図るため、更新、保育、間伐等の森林整備を進めました。

また、森林とのふれあいや森林環境教育等の推進を図ると

に熱中し過ぎ、予定時間を少し超過しましたが、すば

もに、森林資源の循環利用を図るための木材等の安定供給を実施しました。

○事例（特定流域総合治山事業の実施）

事業効果の早期発現と効率的な事業実施を図るため、国有林と民有林の治山事業実施箇所が近接している箇所ので、一体的な整備を行うっております。愛媛森林管理署においては上流の国有林で渓流の浸食防止・土砂流出抑制等のための谷止工を施工し、下流の民有林においては愛媛県が作業道の作設及び森林整備を実施しました。



○事例（高知の森づくりに関する覚書の締結）

高知県と四国森林管理局の間で、民国が連携し、①水源の保全や国土の保全、生物多様性の保全等森林の持つ多面的機能の向上、②県産材の利用拡大による資源循環型社会の形成や地球温暖化の防止、③幅広い県民の参画による森林整備の推進に取り組み内容の覚書を締結しました。協定内容を具体化させるための取組として、森林整備協

定の締結協議も始まっています。

○事例（美しい森林づくりに関するシンポジウム）

地域の方々には「美しい森林づくり」への理解や参加意欲を高めていただくことを目的に「美しい森林づくりに関するシンポジウム」を開催しました。

基調講演では、太田猛彦教授（東京農大）より美しい森林づくりの必要性について講演いただきとともに、林業関係者、地方公共団体、企業等の方々と、森林整備の推進、企業による森林づくり活動、地域振興についてパネルディスカッションを行いました。



シンポジウムの様子

○事例（作業路作設技術研修会）

低コストで壊れない作業路作設技術の向上のため、研修会を実施しました。

参加者の利便性も考慮して管内を五ブロックに分けて開催



森の達人集の案内キャラクター
左：こだま 右：このは

○事例（「森林の達人集」の作成と情報発信）
自然の材料を用いた遊びや、森林をフィールドとした活動を得意とする名人達を「森林の達人（高知県版及び徳島県版）」としてデータベース化し、ホームページに掲載しました。今後



作業路作設の実演

し、作業路作設の実演指導を行うとともに、水処理対策、路側崩壊防止対策等について意見交換を行いました。



植樹の様子

も、順次、香川県版及び愛媛県版の「森林の達人集」を作成して、四国における「森林の達人」のネットワーク化を図り、効果的な森林環境教育を推進していくこととしています。
○事例（四国銀行との連携による多様な森林づくり活動）
高知県香美市の穴内川ダム湖畔にある立割不寒冬山国有林において、四国銀行と連携し、無花粉スギ、少花粉スギを植樹する森林づくり活動を行いました。この活動は、四国銀行が地方銀行有志と連携して取り組んでいる地域の森づくり（日本の森を守る地方銀行有志の会）を支援する取組として実施したものであり、約六〇名の行員とその家族が参加し、森林の働きや土壌の性質などを学んだ後、無花粉スギ、少花粉スギ一一本を植樹しました。

○事例（四国銀行との連携による多様な森林づくり活動）
高知県香美市の穴内川ダム湖畔にある立割不寒冬山国有林において、四国銀行と連携し、無花粉スギ、少花粉スギを植樹する森林づくり活動を行いました。この活動は、四国銀行が地方銀行有志と連携して取り組んでいる地域の森づくり（日本の森を守る地方銀行有志の会）を支援する取組として実施したものであり、約六〇名の行員とその家族が参加し、森林の働きや土壌の性質などを学んだ後、無花粉スギ、少花粉スギ一一本を植樹しました。

も、順次、香川県版及び愛媛県版の「森林の達人集」を作成して、四国における「森林の達人」のネットワーク化を図り、効果的な森林環境教育を推進していくこととしています。

【「国民の森林」に向けた取組】
開かれた「国民の森林」としての管理経営を一層推進するため、四国四県と連携して四国の森づくり活動に取り組むとともに、



四万十川での水生昆虫や魚の採取

○事例（四国の森林づくり子どもサミットの開催）
子どもの視点からみた四国の森林づくりへの提言を情報発信することを目的に、「四国の森林づくり子どもサミット」を開催しました。
サミットには、森林環境教育に積極的に取り組んでいる四国四県の小学校五校、中学校二校、高等学校一校が集まり、森林体験、学習活動の発表や森林環境教育の推進に向けた意見交換を行うとともに、参加者全員で四万十川での水生昆虫や魚の採取・観察などを行いました。

○事例（四国の森林づくり子どもサミットの開催）
子どもの視点からみた四国の森林づくりへの提言を情報発信することを目的に、「四国の森林づくり子どもサミット」を開催しました。

自然再生等の地域に根ざした取組や、広く国民の皆さんの意見を聴く双方方向の情報発信による対話型の取組を実施しました。
○事例（滑床山国有林のシカ被害地の植生回復）
愛媛県、高知県の県境近くに位置する二本杭の山頂周辺では、シカの食害による植生の衰退・消失が深刻化していることから、有識者等からなる検討会を開催し、対策を検討しました。検討会の提言を受け、四万十川森林環境保全ふれあいセンターでは、裸地の著しい山頂周辺部に獣害防止ネットを設置するとともに、ボランティアとの連携・協働によりミヤコザサの移植を行いました。

移植したミヤコザサは順調に生育しており、今後も生育状況をモニタリングしていくこととしています。
○事例（皆伐跡地における針広混交林化等の取組）
森林技術センターでは、森林の公益的機能の発揮や高木性広葉樹の確実な育成のため、針広混交林に向けた更新技術の開発を行っています。ヒノキ人工林の皆伐跡地に針葉樹と広葉樹の区画を群状に配置する試験地を設け、カシやナラなどの苗木の植え込みや、植栽本数を変えた生育状況等、皆伐跡地を針広混

自然再生等の地域に根ざした取組や、広く国民の皆さんの意見を聴く双方方向の情報発信による対話型の取組を実施しました。

○事例（屋島クリーン大作戦）
高松市の屋島国有林では、道路沿いへの不法投棄が後を絶たないことから、地域ぐるみで美化意識の向上と不法投棄防止のPRに努めております。香川森林管理事務所、関係自治体、地域住民及びボランティアが一体となって「クリーン大作戦」に取り組みしており、不法投棄を防止する環境作りや、美しい自然環境の維持に努めています。

○事例（皆伐跡地における針広混交林化等の取組）
森林技術センターでは、森林の公益的機能の発揮や高木性広葉樹の確実な育成のため、針広混交林に向けた更新技術の開発を行っています。



ゴミ回収の様子

○事例（屋島クリーン大作戦）
高松市の屋島国有林では、道路沿いへの不法投棄が後を絶たないことから、地域ぐるみで美化意識の向上と不法投棄防止のPRに努めております。

○事例（屋島クリーン大作戦）
高松市の屋島国有林では、道路沿いへの不法投棄が後を絶たないことから、地域ぐるみで美化意識の向上と不法投棄防止のPRに努めております。

【国有林の管理】
四国森林管理局では、不法投棄の防止や山火事を防ぐため、地方自治体や地域住民の方々と連携をとりながら管内の六五箇所の森林事務所を中心に国有林野の適切な管理に努めています。